

# インテル IT パフォーマンス・レポート

2012 年中間報告書

## 「可能性を追求する」文化の創造

インテルの CIO に就任してから 8 カ月、私はインテルのグローバル IT 部門が優れたビジネス価値を創出し続けているという確かな証拠を目にしています。インテルを取り巻く環境の大きな変化や急速な成長により、IT 部門のリソースやマインドシェアをめぐって競争が生じますが、その中で、私たちはインテルの最優先課題との整合性を保ちつつ、業務遂行のスピードアップに取り組んでいます。

クラウド、IT のコンシューマー化、ビッグデータ、ソーシャル・コンピューティングなど、IT 業界の構造転換から生まれるさまざまなビジネス機会が、IT 部門の動機付けになっています。こうした転換は、IT 部門に対して、テクノロジーの開発と導入だけを担当する部門から、収益の増大に貢献する分析や統合されたソリューションを提供する、戦略的ビジネスパートナーへの脱皮を促しています。

そして、このような変革を実現するため、インテル IT 部門は継続的なイノベーションと組織文化の変革という課題を追求し、コンピューティングの新しい時代に必要とされるスキルとリーダーシップの開発に取り組んでいます。インテル IT 部門では、現状への挑戦、的確な情報に基づくリスクテイク、組織間のコラボレーションの推進を合言葉に、組織のあらゆるレベルでビジネス感覚を醸成し、可能性思考 (Possibility Thinking) の文化を奨励しています。これらの行動方針は、IT 部門が継続的にビジネス価値を提供していくために必要なイノベーションの推進力となります。

この中間報告書では、インテル IT 部門の戦略的イニシアチブであるクラウド・コンピューティング、IT のコンシューマー化、ビジネス・インテリジェンス、およびエンタープライズ・リスク管理の 4 つの分野の進捗状況と、そこから得られる重要な教訓を取り上げます。また、5 番目の戦略的イニシアチブであるソーシャル・コンピューティングの成果についても検討し、インテル IT 部門内の可能性思考の文化の創造に関する初期のいくつかの成功例を紹介します。

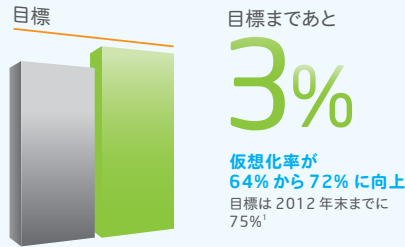
ただし、インテル IT 部門は 6,000 人以上のスタッフを擁する大規模な組織です。したがって、このレポートが紹介する事例は、新たなレベルのビジネス価値の達成に向けた、インテル IT 部門の変革の取り組みのごく一部にすぎないことをあらかじめご了承ください。詳細については、2013 年 1 月発行予定の『インテル IT パフォーマンス・レポート』を参照してください。インテル IT 部門のベスト・プラクティスについては、<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/> をぜひご覧ください。私の Twitter (@kimsstevenson) でもご意見をお聞かせください。



Kim Stevenson  
インテル コーポレーション 副社長 兼 CIO

# 戦略的イニシアチブによる ビジネス価値の創出

## インテル IT 部門の 戦略的イニシアチブの 進捗度: 2012 年前半



**300万**  
米ドル以上

エンタープライズ・プライベート・  
クラウドによる追加のコスト削減額



250 件の新しい  
ビジネスアイデア  
社内のクラウドソース・  
フォーラムから

**275 万時間**

Bring-Your-Own-Device (社員が所有する機器の利用)  
プログラムによる生産性の向上

出典: インテル社内、2012 年 7 月。  
<sup>1</sup> インテルのオフィス / エンタープライズ・データセンター環境における  
仮想化されたアプリケーションの比率 (2012 年 8 月末現在)。

## クラウド・コンピューティング

インテル IT 部門は、2012 年半ばまでに、プライベート・クラウドを通じて各ビジネスグループに提供しているサービスの機敏性と効率を引き上げ、今年だけで 300 万米ドルの追加コスト削減を実現しました。また、オープンな業界標準規格とソフトウェアに基づいた相互運用性のあるパブリック / プライベート (ハイブリッド) クラウドの開発においても大きな前進を見ました。

インテル初のオープンソースのプライベート・クラウド環境を実稼働環境に導入したことにより、インテルのクラウドは、単なるサービスとしてのコンピューティング・インフラストラクチャーを超え、ストレージとネットワークも利用できる Web サービスを統合した環境へと進化する道が開けました。オープンソースの利用の拡大とともに、将来的には、より迅速かつ低コストにサービスを提供できるようになる見通しです。自動化と最適化の進展により、現在ではインフラストラクチャー・サービスを 5 ~ 10 分で導入できるようになっています。それと同時に、使用率や可用性など、IT 運用における重要な指標の改善も進んでいます。

インテル IT 部門は、世界規模で成長するインテルのソフトウェア開発チームをサポートするため、インテル初の、完全に統合化された安全なパブリック / プライベート・ハイブリッド・クラウドを導入しました。この手法により、

インテルのデータセンターが設置されていない遠距離の地域にも、IT 機能を提供できるようになりました。

さらに、セルフサービスで利用できる拡張可能なアプリケーション・ホスティング環境上でオープンソースのソフトウェアを稼働させ、インテルで初めて、実稼働環境への Platform as a Service (PaaS) の試験導入を開始しています。この基盤により、アプリケーション開発者は、革新的なアイデアを 1 日以内に実稼働環境に移行できるようになります。

詳細については、<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/> を参照してください。



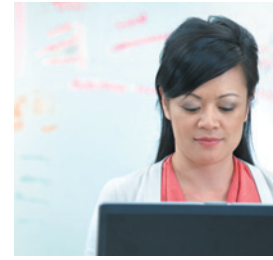
『Best Practices for Building an Enterprise Private Cloud (エンタープライズ・プライベート・クラウドの構築に関するベストプラクティス)』(ホワイトペーパー)



『Extending Intel's Enterprise Private Cloud with Platform as a Service (PaaS) によるインテルのエンタープライズ・プライベート・クラウドの拡張』(ホワイトペーパー)

## IT のコンシューマー化

インテル IT 部門は、インテルのコンピュータ・コンテンツ (コンピューティング機器の集合体) のビジョンの実現と、社員の生産性のさらなる向上を目的として、幅広いデバイスから会社および個人のアプリケーションとサービスへのアクセスがよりシームレスかつ安全なものになるように改善を続けています。その具体的な例として、モバイル・アプリ・プログラムが挙げられます。インテル IT 部門は、モバイルアプリ開発の迅速化と効率化を促進するため、特定の機能、ツール、リソースを組み込んだフレームワークを作成しました。このフレームワークを使用して、カスタマー・リレーションシップ・マネジメント (CRM) 用アプリ、ソーシャルメディア・アプリ、トラベル・ツール・アプリ (インテルサイトのナビゲーションを支援するロケーション・ベースのコンテキスト認識アプリなど) を開発してきました。これ以外にも、14 種類のエンタープライズ・アプリを実稼働環境に導入し、さらに多くのアプリを計画中です。また、社員が複数のデバイスの同期をとりやすいように、クラウドにファイル同期アプリを導入しました。



## 可能性思考 (Possibility Thinking) によるビジネス革新

インテル IT 部門は、IT のイノベーションの重要性を認識した上で、将来を見据えた取り組みに着手し、「可能性思考 (Possibility Thinking)」に貢献した社員に報酬を与えています。的確な情報に基づくリスクへの挑戦と創造的な思考というインテルの文化は、「それは不可能だ」という考え方を問い直し、「もしそれが可能であるとしたら、そのために必要なものは何だろうか？」という考え方に切り替えることを促します。可能性思考の取り組みの結果、より大胆な発想が生まれ、いくつかの大きな成果を上げています。

可能性思考を奨励するため、インテル IT 部門は、社員のアイデアとその結果を紹介する「ブライトスポット (Bright Spots)」というプログラムを導入しました。また、成功はしていなくても、将来のプロジェクトに好影響を及ぼすような重要な教訓をもたらすアイデアも評価しています。

ブライトスポットの具体例としては、「IT On the Go」という自動販売機が挙げられます。サービスセンターが閉まっていたり、技術者の手が空いていない時間帯にも、PC の周辺機器が必要となることはよくあります。そこで、バッテリー、マウス、キーボード、ハンドセット、アダプターなど 23 種類の標準的な周辺機器専用の自動販売機を試験的に導入しました。その結果、必要性の高い品目を 24 時間 365 日いつでも入手できるようになり、社員にとっての利便性が向上し、PC サービスセンターの非技術的な作業量は軽減しました。



インテル IT 部門は、IT のコンシューマー化への対応の一環として、企業ネットワークから切り離された無料の構内 Wi-Fi\* を通じて、パーソナル機器のワイヤレス接続を提供しています。また、現時点で成功を収めている Bring-Your-Own Device (BYOD) プログラムにも引き続き取り組んでいきます。インテル IT 部門は、Ultrabook™ などのデバイスの評価を積極的に行い、安全かつ最適なユーザー体験が得られるデバイスを社員に推奨しています。2012 年の時点で、個人所有の機器の使用率は 14% にまで増加しました。2012 年半ばには、約 19,000 人の社員が BYOD プログラムに参加し、1 日当たり平均 57 分 (推定値) の労働時間短縮を実現しており、今年度に限っても、これまでに合計約 275 万時間の生産性向上を達成しています。

## ビジネス・インテリジェンス

インテル IT 部門の高度な予測ビジネス・インテリジェンス (BI) ソリューションは、大きなビジネス価値を創出しています。こうした成果を上げるため、インテル IT 部門は、ビジネス分析のスキルを持つ少数のチームを結成し、そのリソースを (6 カ月以内にインテルの収益を 1,000 万米ドル増大させる) 影響の大きいプロジェクトに集中させました。例えば、セールス / マーケティング部門向けに高度な BI ソリューションを開発し、大規模なデータセットのマイニングを通じて有望なリセラー・ビジネス・パートナーを見極めることを可能にしました。このソリューションは、まずアジア太平洋地域で試験的に導入され、新たに大きな収益をもたらす可能性のあるリセラーを特定しました。

これらの高度な BI ソリューションの導入から得られた教訓は、現在、さらに影響力の大きいプロジェクトに適用されています。ここでは、データ分析が現在のソリューションの 5 ~ 10 倍の価値をもたらす可能性があります。

インテル IT 部門は、これらの高収益をもたらすビジネス機会に資本を集中するため、当初はセキュリティと製造のユースケースに焦点を合わせて、ビッグデータ・インフラストラクチャーとビジュアル化ツールの開発を続けていく予定です。また、セルフサービスで利用で

きる BI 手法も実装中であり、これが実稼働すると、ユーザーへの情報提供が迅速化すると同時に、ユーザー自身が新しい可能性と知見を自律的に発見できるようになります。

詳細については、<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/> を参照してください。



『Roadmap for Transforming Intel's Business with Advanced Analytics (高度な分析によるインテルのビジネス変革のロードマップ)』(ホワイトペーパー)



『Mining Big Data in the Enterprise for Better Business Intelligence (ビジネス・インテリジェンスの強化に向けた企業内ビッグデータのマイニング)』(ホワイトペーパー)

## エンタープライズ・リスクとセキュリティ

インテル IT 部門は、社員の生産性、ビジネスの機敏性の向上とリスク管理を両立させるために、「Protect to Enable (可能にするためのセキュリティ保護)」と呼ばれる情報セキュリティ戦略を計画し、初めて実稼働環境に導入しました。この戦略には、ビジネスの柔軟性を高めたり、動的できめ細かな制御機能を用いてセキュリティ侵害を迅速に検出できるようにするなど、新しい機能の開発が含まれます。

詳細については、<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/> を参照してください。



『Building a Mobile Application Development Framework (モバイル・アプリケーション開発フレームワークの構築)』(ホワイトペーパー)



『Pre-Evaluating Small Devices for Use in the Enterprise (小型機器の企業内利用に向けた事前評価)』(ホワイトペーパー)

具体例の1つとして、非常に高度なセキュリティを要求する仮想化サーバー環境を対象とした、高信頼ゾーン・アーキテクチャーの導入が挙げられます。独自のきめ細かな信頼度モデルを用いて、リスクを分類し、インターネット接続アプリケーション向けのポリシーよりも厳格な制御を適用できるように構成された、一連のセキュリティ・プロセスとポリシーを策定しました。また、包括的なホスト/ネットワーク侵入検知機能を提供する新しいネットワーク監視ツールなど、各種のセキュリティ監視機能も導入しました。これにより、機密性の低いデータやアプリケーションに負担をかけずに、高度なセキュリティを必要とする基幹業務アプリケーションを仮想化できるようになりました。インテルは、2012年中に仮想化率を64%から75%に引き上げるという目標を設定していますが、現時点でインテルのオフィス/エンタープライズ環境の仮想化率は72%に達しています。

インテル IT 部門では、IT のコンシューマー化と BYOD プログラムへの対応をさらに強化するため、独自の信頼度計算ソリューションの設計と導入を進めており、2012 年後半には最初のリリースが稼働を開始する予定です。このソリューションは、ユーザー権限、データ、アプリケーション、デバイスのタイプ、位置に基づいて、ユーザーアクセスとモニタリングを動的に調整します。この革新的な手法により、インテル IT 部門は 2012 年の CIO 100 アワードを受賞しました。

この文書は情報提供のみを目的としています。この文書は現状のまま提供され、いかなる保証もいたしません。ここにある保証には、商品適格性、知的所有権の非侵害性、特定目的への適合性、また、あらゆる提案書、仕様書、見本から生じる保証を含みますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる情報の誤りや、それによって生じるいかなるトラブル (PC パーツの破損などを含むがこれらに限られない) に対しても一切の責任と補償義務を負いません。また、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとらざらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

Intel, インテル, Intel ロゴ, Ultrabook は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

\* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

## インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1  
<http://www.intel.co.jp/>

©2012 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。  
 2012 年 10 月

詳細については、<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/> を参照してください。

-  『Protect to Enable – Increasing Productivity while Decreasing Risk (可能にするためのセキュリティ保護 - 生産性向上とリスク削減の両立)』(ビデオ)
-  『Virtualizing High-Security Servers in a Private Cloud (高度なセキュリティを要するサーバーのプライベート・クラウドにおける仮想化)』(ホワイトペーパー)
-  『Improving Security and Mobility for Personally Owned Devices (個人所有の機器の利用に向けたセキュリティとモビリティの強化)』(ホワイトペーパー)





## ソーシャル・コンピューティング

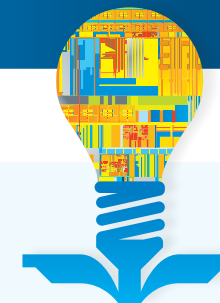
ソーシャル・コンピューティングは、私たちの知識の共有方法を一変させました。かつては選ばれた少数の人だけが持っていた情報が、今では多くの人々の行動を活性化しています。ソーシャル・コンピューティングは、インテルの内部および外部の専門家、社員、顧客とつながり、互いに協力するための方法として、また新しい市場と顧客を獲得するための方法として、社内に広く普及しています。この目的のため、インテル IT 部門は、一般的なソーシャル・コンピューティング・サービス、ツール、サポートのセットをインテル全体に提供し、効率、価値、使用率の向上を図っています。

社内では、インテルの業績向上、ビジネスの推進、新製品の開発、製品予測の最適化のためのアイデアに関するコラボレーションを促進するため、クラウドソーシングやゲーミフィケーションなどの手法も実験に導入しています。最近では、4,500 人以上の社員が新しいビジネスチャンスに関するクラウドソース・フォーラムに参加し、250 件以上のアイデアを生み出しました。

社外向けには、18 ~ 30 歳の年齢層のブランドへの関心を高めるため、コーポレート・マーケティング部門と協力して、『iQ by Intel』という実験的なオンライン・ニュース・マガジンを発行しています。このマガジンでは、数百人に上るインテルの主な技術者や研究者が情報を選択・共有し、テクノロジーとトレンドについて議論しています。IT 部門は、こうした読者層を分析した上で、タブレットやスマートフォンなどタッチ操作式のデバイスでも閲覧しやすいように、サイトを最適化しました。最初の 1 カ月では、インテル側から 50 本の記事を投稿し、訪問件数 38,000 回以上、共有件数 500 件以上を記録しました。

詳細については、<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/> を参照してください。

-  『Social Media Support Strategies for IT』(ラジオ番組)
-  『Becoming a Social IT Organization』(CIO ブログ)



## インテルの可能性思考にご参加ください。

インテル IT 部門の戦略的イニシアチブの詳細については、2013 年 1 月発行予定のインテル IT パフォーマンス・レポート (<http://www.intel.co.jp/jp/go/itatintel/>) を参照してください。

インテルの Open Port コミュニティー (<http://communities.intel.com/community/openportit/> (英語)) で、あなたの IT イノベーションとベスト・プラクティスを私たちと共有しませんか。

